

その出発、しばし待たれよ！

一枚岩になるまで、研修は続く

猛暑の日々、お変わりございませんか。「出発式」が終わり、ホッとしておられるところかもしれません。あなたとのご縁に、改めて、感謝する次第であります。

出発式の日、私は、どこことなく`空気`の異変を感じていました。いつもと違う`よそよそしさ`が、会場に漂っていたのです。式典は滞りなく進みました。私も、いつものように、諸君の出発を祝福しました。しかし、会場に、`ひんやりとした空気`が感じられたのです。

やがて、式典が終わり、夜の懇親会場に向かうために、車に向かった時、何人かの塾生諸君が立ち話をしていました。私は、夜の懇親会でまた会えるから挨拶しなくてもいいだろうと、その横を黙って通り過ぎ、車に乗ったのです。ところが、「彼らは懇親会に来ません」と聞きました。

思わず、「どうして?」と、入倉塾頭に聞きました。その時、初めて、`ひんやりとした空気`の原因を教えられたのです。まことにうかつなことですが、十三期生の塾生の間に、大きな溝があることを初めて知りました。私は、その時から、気持ちが収まらなくなりました。十三期生の一年間の研修は終わりました。しかし、私の気持ちが終わらないのです。そのために、敢えて、この手紙を書いた次第です。

「済んだことだからもういいではないか」と考える人もいるかもしれません。私は、どうしても、「済まされない、済ますわけにはいかないのです」。本来、`山梨を良くするために、互いに力を合わせて精進していこう`という『夢甲斐塾』で、塾生諸君が、反目し合いながら出発していくことは許されないし、許してはならないと思っています。

その日、「何カ月、何年かかっても、お互いが一枚岩になるまで、十三期生の出発は認めない」と、宣言しました。反目し合う人達が、一枚岩になるためには、両方とも、一段高い所に立たなければなりません。それが、`人間としての成長`です。また、小異をもって反目し合う県民性を克服する絶好の機会です。本当の研修の時がきました。「十三期生が、お互いの溝を完全に越えて、一枚岩になれるまで研修を続ける」ことを、ここに申し渡します。私の申し渡しが無視され、一枚岩になる努力がなされないとしたら、すべては、塾長である私の教育責任であります。私も覚悟を決めて、諸君からの回答を待ちます。今一度みんなで会い、私からの申し渡しへの対処を相談してください。みんなが一枚岩になる努力こそ、山梨を良くする力を養う道です。

諸君から、「みんなで話し合った結果、わだかまりは克服できました。全員が、改めて集まります。どうぞお越してください」と声の掛かる日がくることを信じて、いつまでも待ち続けます。その時には、私は、自腹を切って出掛けます。

590-0116 大阪府堺市南区若松台 3-3-17

Joko_akira@shanjia.net

『夢甲斐塾』塾長 上甲 晃